

1 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

◎ 各教科・科目の指導

○ 普通教科

ア 普通教科の授業時間数を確保すると共に、定期考査時期の固定化と学習期間の保障を進めた。

イ 学力向上を目指して、学力スタンダードに基づく教科指導に取り組むと共に、授業規律や家庭学習の習慣を身に付けさせる指導を継続した。

ウ 「アクティブプラン to 2020－総合的な子供の基礎体力向上方策（第3次推進計画）－」に基づき、生徒の体力向上を目指して、生徒一人一人の個に応じたきめ細かい指導を行った。

エ 読書活動や発表会の実施、スピーキングやエッセイの重視等、言語活動を充実させた。

○ 専門教科

ア 基礎・基本を徹底して身に付けさせると共に、高度な専門教育を推進した。

イ 学習活動の成果を積極的に発表させ、自己の表現の在り方について考えさせた。

ウ 鑑賞及び発表により言語活動を充実させ、社会とのつながりを意識し、社会貢献の志を高めた。

○ その他

ア 「東京都オリンピック・パラリンピック教育実施方針」による教育を進め、その趣旨や意義を指導することを通して、日本人として国際社会での在り方や生き方を考えさせた。

イ 生徒による授業評価を授業改善に生かし、ICT機器を積極的に活用した授業づくりを推進した。

ウ 投票年齢満18歳以上への法律改正に伴い、主権者教育を推進した。

エ 特別に支援を必要とする生徒への組織的できめ細やかな指導を行うため、生徒理解を深める校内研修等を実施した。

オ 感染症予防対策を講じ、オンライン、オンデマンドによるリモート授業を実施した。

◎ 特別活動の指導

ア 生徒が相互に尊重し合い協力し合う人間関係を育て、人間尊重の精神を培った。

イ 人間としての在り方や生き方について考えさせ、社会の一員としての自覚を深めさせた。

ウ 感染症対策に留意し、避難経路の確認や防災講話による避難訓練を年4回実施し防災教育を推進した。

◎ 生活指導

ア 生活指導指針により様々な規範の意義や必要性の理解を深め、教職員が組織的に指導を行った。

イ 時刻厳守の指導、行事や集会での服装指導等を行い、基本的な生活習慣の確立を目指した。

ウ 机上整理や掃除等の指導を徹底して行い、自ら学習環境を整える習慣を身に付けさせた。

エ HRやセーフティ教室等により薬物乱用防止やインターネットの適切な利用等に関して指導した。

オ 生徒の健康状態や生活実態を調査し、健康の保持・増進のための指導を行った。

カ 体罰禁止と根絶及びいじめの総合対策に基づいた対応として、いじめの未然防止や体罰の根絶を徹底するための校内研修等を実施して理解を進め、教職員が組織的な指導を行った。

◎ 進路指導

ア 生徒一人一人に応じたきめ細かい進路指導を組織的に行い、3年間を見通したキャリア教育を通して、自ら進路を選択する能力と望ましい職業観を身に付け、進路決定率を向上させた。

イ 各科でキャンパス訪問や進路講演会、進路懇談会等を計画的に行い、進路に対する意識を高めた。

◎ 総合的な探求の時間

- ア 総合的な探求の時間全体を通して、生徒の生きる力を培い、将来芸術家を目指す人としての在り方や生き方について考えさせた。
- イ 総合的な探求の時間により、異なる芸術分野の生徒同士が互いに協力して行う活動を充実した。
- ウ シラバス、年間授業計画、実施要項等を作成して、評価計画に基づいた評価を行った。

(2) 重点目標への取組と自己評価

○ 特色ある教育活動

- ア レコーディングによる定期演奏会（音楽科）、1・2年次展や卒業制作展（美術科）、成果発表会（舞台表現科）等の特色ある学校行事を行い、生徒の学習成果を広く都民に公開すると共に、施設改修による発表会中止への代替措置にも取組み、さらなる学習意欲の向上につなげた。
- イ 学校説明会や個別相談会を複数回実施することにより、本校教育活動への一層の理解を進めた。
- ウ 生徒一人一人の学習意欲をさらに高めることにより、進路決定率の向上を目指した。

○ 学校週5日制への対応

- ア 平日午前7時30分からアトリエ及びレッスン室を補習、自習室として活用すると共に、土曜学習日を年11回設け、生徒の主体的な学習時間を確保した。
- イ 特色ある学校行事を週休日に実施することにより、保護者や都民の期待に応えると共に、生徒の平日の学習時間を確保した。

○ 都民から信頼される学校づくり

- ア サービスの厳正を徹底し、体罰根絶スローガン『Keep Calm and Teach On』の取組みを継続した。
- イ 経営企画室と連携し、美術科・舞台表現科・音楽科が一致協力して組織的な教育活動を推進した。
- ウ 学校運営連絡協議会を年3回開催し保護者や有識者の建設的な意見を学校経営の改善に生かした。
- エ 本校への評価を高め理解を深めることにより、入学者選抜応募倍率として適切な数値を目指した。

* 数値目標の達成状況 ※（ ）内は今年度の目標値

- 1 第9期生の進路決定率は70%だった。(74.0%)
- 2 本校独自開催の学校説明会の参加者の総人数は1325人だった。(1517人)
- 3 入学者選抜に関しては、昨年度の入学者選抜の実績を踏まえた募集対策等の取組みを進めた結果推薦に基づく入学者選抜の各学科の平均応募倍率は4.73倍だった。(5.1倍)
学力検査に基づく入学者選抜の各学科の平均応募倍率は1.99倍だった。(2.05倍)
- 4 学校評価アンケートの生徒の学校生活充実度は肯定的意見が91%だった。(91%)

2 次年度以降の課題と対応策

普通教科の重要性については、学校全体での共通意識をさらに強め、授業力の向上、定期考査期間前後の学習時間の確保や、補習講習の実施、生徒の家庭学習時間の増加に取り組む。

本校の最大の特色である演奏会や発表会、展覧会等の行事について感染症予防対策を講じながら実施する計画を立てる。